

今回はカキ特集

①鳥はカキが大好き！



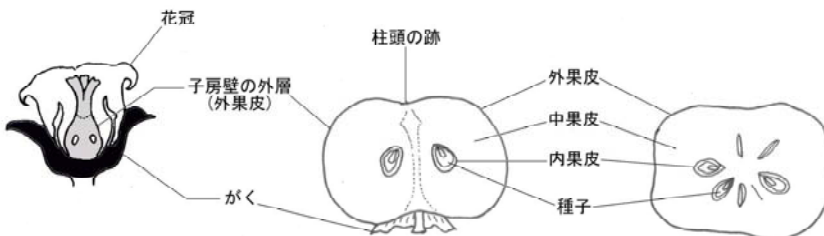
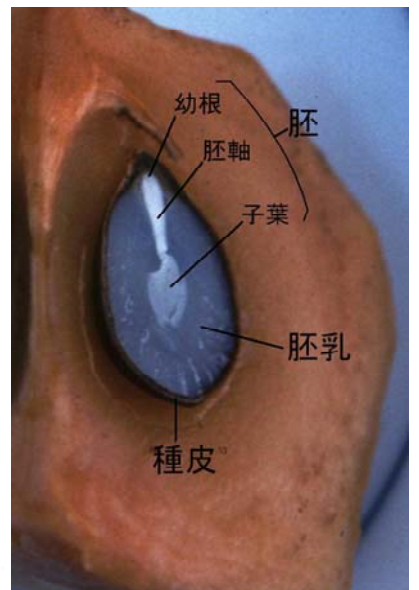
カキ、クリからリンゴ、ミカンへと果物の主役も移ってきましたが、今回はカキの特集です。上の写真はどちらも昨年、牛久市内で撮ったもの(左はムクドリ、右はメジロ)ですが、鳥もカキは大好きなようで、大きな鳥は種子を飲み込んで他の離れた場所に糞として落とし、カキの仲間を増やすのに役立っているようです。メジロのような小さな鳥には種子を飲み込むことはできないでしょうが、つつかれながら下に落ちた実や種子をネズミなど他の動物が運んでいくといわれます。

②干し柿は渋柿品種なのになぜ甘い？

先日、思いがけず自家製の干し柿をごちそうになりました。干し柿にするカキは渋柿でそのままでは食べられないのですが、皮をむいて干しておくで、その表面に被膜ができて空気(酸素)の出入りができなくなります。そうするとカキ果実の中では渋味の原因となるタンニンが水に溶けない形になります。ヒトが食べ物の味を感じるのは水溶液の状態になった物質が舌の味覚細胞を刺激することで起こりますから、水に溶けてない状態では渋味も感覚することができないのです。いったい誰が考え出したのか、すばらしい知恵ですね。ついでにもう一つ言うと、渋柿をじゅくじゅくに軟らかくなるまで放っておいてスプーンですくって食べるとやはり甘くとろとしたカキに変身していることに気がつきます。これはタンニンをふくむ細胞がこわれて、流れ出したタンニンがペクチンという成分と別の物質をつくったり、細胞のかけらとくっつくことによるといわれます。

③カキの種のつくり

カキの種子は右のように胚、胚乳、種皮からできています。胚は子葉、胚軸、幼根からできていて、これが成長してそれぞれが双葉、茎、根となり芽ばえとして発芽します。胚乳は芽生えが自分の力で生活できるようになるまでの養分を貯えています。クリやクルミのように、種子の中に胚乳をもたないものもあります。これらの場合、私たちは子葉に蓄えられた養分を食べているのであってカキのように雌しべの壁が発達した果皮を食べているわけではありません。



カキ(真果)

[理科支援員 宮内]